

授業科目名称 : ソーシャルワークの理論と方法（共通）Ⅱ 授業コード： 15606

授業科目英文名称： Social Work Theory and Methods（Common）Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	2	2	選択	
担当教員				
山下彦（実務経験のある教員）				
展開方法	講義			
ナンバリング	DB208			
添付ファイル				
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標		評価手段・方法	評価比率
専門力	ソーシャルワークに関する専門用語ならびにソーシャルワーク過程について説明できる。		定期試験	60%
情報収集、分析力	事例を、エコマップやジェノグラムを用いて表現できる。		小テスト	15%
コミュニケーション力	利用者主体の支援計画のためのアセスメントについて説明できる。		授業内課題	5%
協働・課題解決力	事例検討等をする際に、主体的に個人またはグループでの活動に参加できる。		授業内課題	15%
多様性理解力	授業・グループディスカッションを通じて、考え方の多様性を理解するとともに、それを受け入れることができる。		授業態度	5%
出席			受験要件	
合計			100%	

授業のねらい	この授業は、人間尊重とホスピタリティの醸成を図ることを基軸に据え、学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を習得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができるよう、次の2点をねらいとする。①ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。②コミュニティワークの概要とその展開について理解する。 またソーシャルワークの記録とそれに係る知識・技術について学ぶ。ソーシャルワーク実習の履修を予定する学生にとっては、ソーシャルワーク演習やその他の科目とともに実習における相談支援のかかわりや支援計画作成の理論的基礎を理解することが必要となる。		
アクティブラーニングの類型	①④⑩		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	定期試験（60％）：筆記試験の形式にて行い、持ち込みは不可とする。出題形式は、概ね社会福祉士国家試験と同様とする。 授業態度（5％）：普段の授業中の態度、授業内課題やグループディスカッションの取り組み具合をもって評価する。 小テスト（15％）：5・10・15コマに復習を目的に行う。出題形式については、授業中に情報提供を行う。 授業内課題（20％）：随時、ポートフォリオや配布資料を基に実施する。形式等については、授業中に情報提供を行う。 フィードバック：小テストや授業内課題は、授業中に評価・解説する方法を用いてフィードバックしていく。		
授業概要	この授業では、ソーシャルワークの過程について展開を系統立てて学ぶとともにコミュニティワーク、ソーシャルワークの記録について知識を深める。教科書及び配布資料を用い、講義を中心とするが、学生が相互に説明をしたり、意見を交換したりするような個人またはグループでの活動を取り入れる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。		
教科書・参考書・指定図書	教科書：ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座・12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』中央法規 参考書：空閑活人（2009）『ソーシャルワーク入門』ミネルヴァ書房（専門用語理解に活用） 指定図書：木下大生、藤田孝典（2015）『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事（岩波ブックレット）』岩波書店		
授業外における学修及び学生に期待すること	適宜、実際の事例、新聞記事、社会福祉士国家試験問題（過去問）などを通して授業を進めていくので、教科書で学修した内容をさらに深めて理解してもらいたい。 講義は教科書の朗読を指名して行うことがあるため、読めない漢字にはふりがなをつけておくなど予習は必ず行っておくこと。大学での講義であるので、大切なものは自分で判断して、教科書に記載している内容も含めてノートに書く（メモを取る）習慣を身につけること。復習としては、知識の定着を兼ねてノート整理に努めること。		
授業計画	回	テーマ	授業の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーション。科目の目標、進め方、テーマを理解する。「ソーシャルワーク」とは何か考え、学ぶ。
	2	ソーシャルワークの過程(1)	ソーシャルワークの展開過程の流れについて学ぶ。 ケースの発見について学ぶ。

3	ソーシャルワークの過程(2) 受理面接(インテーク)	受理面接(インテーク)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。「クライアントになる」ことを考え、学ぶ。	予習：2章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
4	ソーシャルワークの過程(3) 受理面接(インテーク)	問題把握、ニーズについて考え、学ぶ。相談援助における契約を学ぶ。	予習：2章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
5	ソーシャルワークの過程(4) 事前評価(アセスメント)	事前評価(アセスメント)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。	予習：3章1・2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
6	ソーシャルワークの過程(5) 事前評価(アセスメント)	アセスメントの視点、活用される技術を学ぶ。	予習：3章2・3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
7	ソーシャルワークの過程(6) 支援計画(プランニング)	支援計画(プランニング)の意義、目的、方法、留意点などについて学ぶ。支援標的、目的設定について考える。	予習：4章を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
8	ソーシャルワークの過程(7) 支援計画(プランニング)	介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画について学ぶ。	予習：4章を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
9	ソーシャルワークの過程(8) 支援の実施、介入	介入(インターベンション)の視点、活用される技術を学ぶ。	予習：5章を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
10	ソーシャルワークの過程(9) 経過観察(モニタリング)	支援の実施、経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定について学ぶ。	予習：5章2節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
11	ソーシャルワークの過程(10) 支援の終結と事後評価	支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点について学ぶ。	予習：5章3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
12	コミュニティワーク(1)	コミュニティワークの意義と目的について学ぶ。	予習：12章1節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
13	コミュニティワーク(2)	コミュニティワークの展開について学ぶ。	予習：第12章2・3節を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
14	ソーシャルワークの記録	記録の意義と必要性、技術、記録の保存について学ぶ。	予習：第9章を読む。 復習：知識を定着させる。 (ノート整理)
15	まとめ	ソーシャルワーク過程と各過程の意義、目的、方法、留意点を理解する。	予習：ノートを見て全体を振り返る。 復習：SWの過程や関わる専門用語を復習する。
16	定期試験		